

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

6月の日経平均株価は上昇しました。上旬は米国ハイテク株高や円安を好感し上昇しました。中旬には金融政策決定会合にて国債買い入れの減額方針が示され、ハト派的に捉えられたものの、フランスの国民議会選への懸念からリスク回避で下落しました。下旬にかけては円安の進行や国内長期金利の上昇から自動車や金融株が主導するかたちで上昇しました。

02 日本債券市場

6月の日本長期金利は低下(価格の上昇)しました。月前半は米長期金利低下や、日銀決定会合で現行の金融政策が現状維持となったことを受けて国内金利は低下しました。一方で、月後半は急速な円安を受けて日銀が引き締め的なスタンスになるリスクが意識されたことが相場の重しとなり、徐々に金利は下げ幅を縮小する展開となりました。

経済金融環境

01 日本経済環境

4月毎月勤労統計では名目賃金の上昇が続く一方、物価上昇の影響で実質賃金は前年同月比で25カ月連続のマイナスとなりました。春闘の結果が反映されていない企業も多く、夏以降の結果が注目されます。

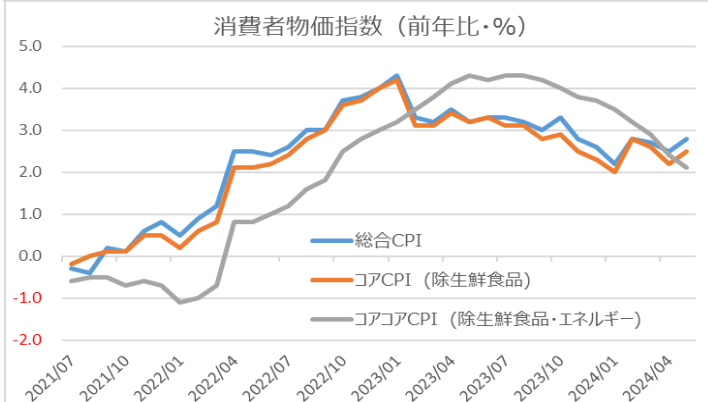
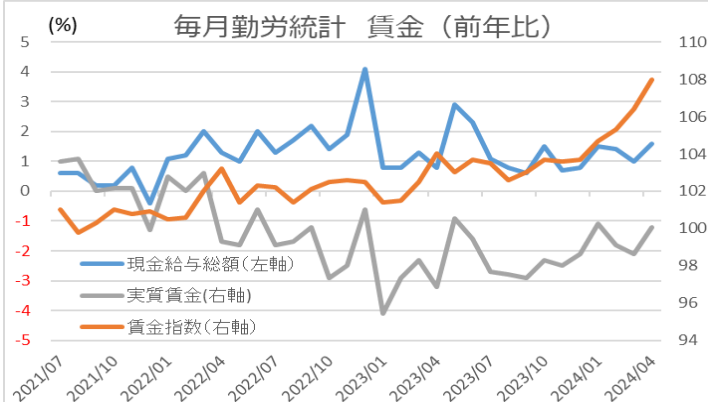
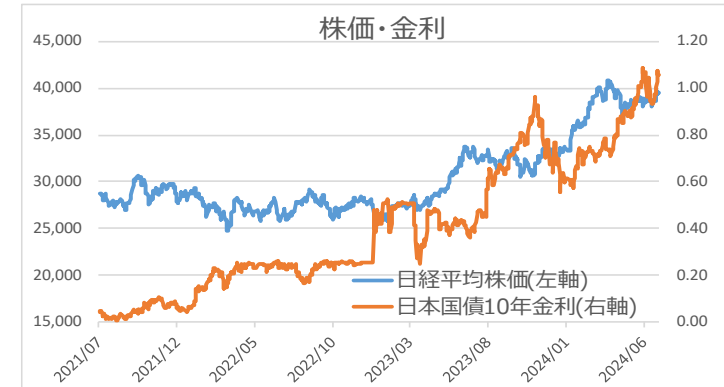
5月の消費者物価指数は、電気代の上昇によりコア指数は前年同月比で4月から伸び率が拡大しました。一方、サービス価格や食料をはじめ、エネルギー以外の項目のインフレは緩やかな鈍化傾向にあり、コアコアCPIの伸び率縮小が続いています。

今後の見通し

01 日本株式市場

設備投資の回復や春闘の給与反映に加え、定額減税による個人消費の増加などから企業業績は徐々に切り上がると考えます。また、企業による自社株買いや新NISAの資金流入なども引き続き株価の追い風になるとみています。

一方で、7月の金融政策決定会合での国債買い入れ減額規模に対する警戒感や米英仏の選挙など海外政治情勢には注意を要すると考えております。



(注) データ期間: 2021/7/1~2024/6/30

(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

02 日本債券市場

賃金と物価の好循環を慎重に確認する日本銀行の姿勢は維持されるものの、市場では政策金利の早期引き上げが意識されるため、徐々に金利のレンジが切りあがるのが想定されます。一方で、海外では物価の落ち着きから利下げに転じる中央銀行も徐々に増えてきていることから、内外金利差から円高が進行し国内の財価格の落ち着きが意識された場合は、長期金利の上昇も落ち着きがみられると考えます。

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

6月のS&P500指数は上昇しました。5月に続きAIを投資テーマにした情報技術セクターが指数を牽引しました。6月FOMCでは、年内の利下げ見通しが3月時点の3回から1回に修正されたものの、同日に発表された消費者物価指数でインフレの鈍化が確認され、月を通じて大きな調整なく堅調な株価推移となりました。

02 米国債券市場

6月の米国長期金利は低下(価格は上昇)しました。雇用統計の上振れにより、労働需給のひっ迫感が継続する思惑から、長期金利は上昇しました。その後、FOMCでは政策金利見通しが引き上げられましたが、物価指数の下振れから、9月FOMC会合での利下げ期待が高まり、長期金利は低下に転じました。

経済金融環境

01 米国経済環境

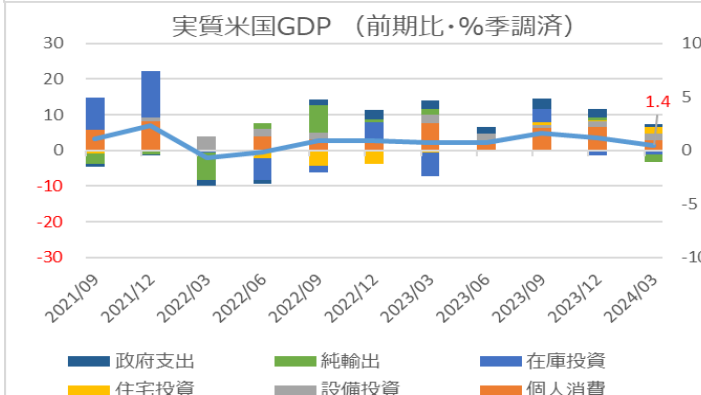
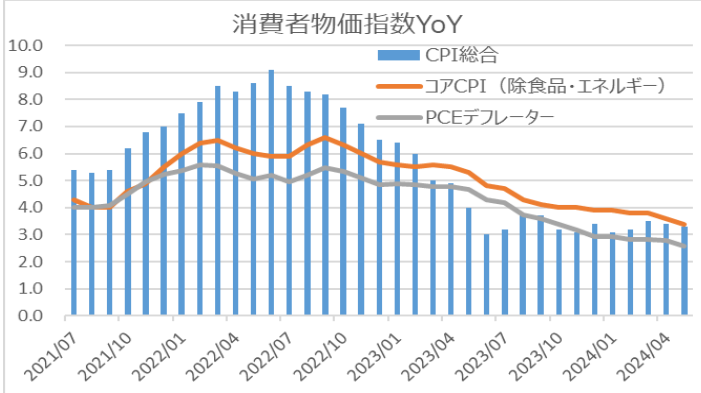
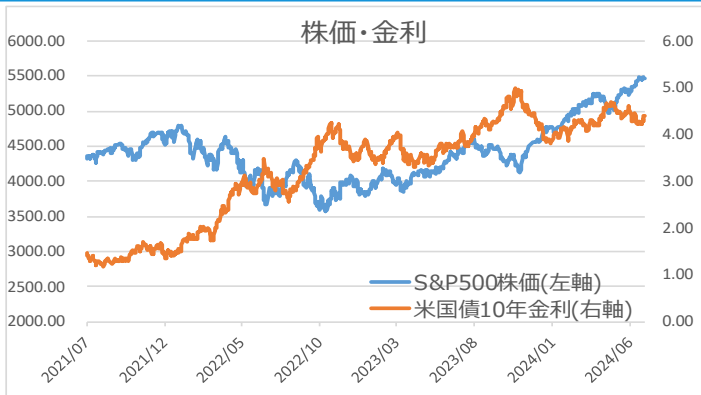
5月の消費者物価指数は総合、コアともに前年同月比・前月比の伸び率は縮小しました。また、コアPCEデフレーターについても同様に伸び率が縮小し、インフレ鈍化傾向が確認されました。

実質GDP確定値では、個人消費が改定値から下方修正され、インフレ環境下、足元では景気の牽引役としての力強さを欠くことを印象付けました。

今後の見通し

01 米国株式市場

米大統領選挙に向けた思惑が高まりやすい局面に入り、やや不安定な値動きも想定されますが、7月後半から本格化する企業決算で、市場の期待に沿う実績と見通しを確認し、結果として底堅い株価推移を想定します。一方で、物価の上振れ等で利下げ期待が一段と後退し、金利が上昇する場合においては、株価は下落すると考えます。



(注) データ期間: 2021/7/1~2024/6/30

(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

02 米国債券市場

海外中央銀行の金融政策スタンスが利下げとなる中、FRBの利下げ開始時期に注目が集まっています。

引き続き米国の雇用指標は堅調ですが、物価指数に対する警戒感は和らぐ中で、金利は横ばいからやや低下を見込んでおります。